

横川っ子だより



学校訪問を終えて

6月25日、半田市教育委員会による学校訪問がありました。

当日は、教育長先生をはじめ、教育委員さん、教育部長さん、学校教育課長さん、指導主事先生他、関係の皆様にご授業をいただき、その後の教員による、よりよい授業に向けた話し合いにもご参加いただき、ご指導等をいただきました。

以下、その内容をご紹介します。

- ・子どもの興味や関心を引きつける工夫がよく考えられていて、楽しい授業だった。
- ・学習課題を「どうしたら～だろうか?」とし、子どもが主体的に解決していこうとする授業の流れ（つなぐ→つながる→つなげる）が統一されていた。
- ・教員が子どもの実態を捉え、子どもに寄り添った授業により安心感が生まれていた。
- ・子どもが授業に集中しやすいよう、教室環境では黒板周りをすっきりさせ、どの教室も統一されていた。
- ・教員が、元気、笑顔、優しさいっぱい子どもとかわり、子どもに向き合う姿勢がよかった。
- ・横川と言えば、外国につながる子どもが多くいるが、この学習は外国につながる子どもにもわかるだろうかといった視点で、話し合いがなされていた。
- ・地域学習により、学校が好き、地域が好き、半田市が好きな子どもを育ててほしい。
- ・今の子どもは、様々なストレスを抱え、子ども自身が困っている。子どもの思いを受け止め、柔軟な対応、状況に合わせた対応をしてほしい。

本校では、来年度から全面実施となる新しい学習指導要領を理解し、教員一人一人が確実に実践できるよう、「主体的・対話的で深い学び」をはじめ、外国語や道徳の授業を磨いてきました。そして、子どもが、できる・わかる喜びを実感し、主体的に学ぶようになるにはどうしたらよいかを考えてきました。

子どもに学びの必然性をもたせるよう導入を工夫したり、学んだことを基に意図的にコミュニケーションの場を設けたり、考え議論したくなる発問を工夫したりして、少しずつ、子どもの興味・関心を引きつけられるようになってきました。

今後は、「できる・わかる喜び」が「個々の学力向上」につながるよう、さらによりよい授業を目指して努力していきたいと思っております。



こま 困った子ではなく「困っている子」



人は誰も不安や悩みを抱えています。もし、その不安や悩みを解消できず、コップからあふれてしまったらどうなるでしょうか。

学校では、その子にとっての心のエネルギー（例えば、好きなこと）を満たし、同時に動き出すきっかけをつくりながら、不安や悩みを減らしていきたいと考えています。まず、何に困っているのかを理解しようとするのが大切だと思います。その子の心の壁を取り除き、困っていることが、ちゃんと見えるよう、子どもとの信頼関係を築くことを大切にしたいです。困っている子への対応として、以下に努力して参ります。

- ・認めることを繰り返して、自分是可以るんだ！OKなんだ！という自己肯定感をもたせます。
- ・その子のつまずきを見極めて支援します。
- ・禁止や否定的な言葉でなく、何をすればよいかを具体的に伝えます。
- ・ただ我慢を強いるのではなく、どう行動すれば気持ちが落ち着くのかを教えます。
- ・お手伝いで、自分は人の役に立っているという感覚をもたせます。

「われら ちいき 地域をてらす よこがわ 横川っ子」 よこがわまつ たの 横川祭り 楽しいさわぎ おこしちやえ！～

今年度より半田市では、家庭・地域・学校が連携・協働して子どもの成長を支える「コミュニティ・スクール」が始まりました。本校では、地域学習（地域の教育力を活かした学習）を通して、横川を学び、横川に誇りをもち、課題を見つけて、未来を創る子どもを育成して参ります。さらに、横川に愛着と誇りがもてるよう、以下の3点について取り組んで参ります。

① 横川山車の修繕

車輪部を修繕し、骨組みを補強し、装飾を加えることで、地域が誇れる山車にします。

② 横川おどりの制作

横川オリジナルの歌と踊りをつくり、外国の人を巻き込んでみんなで楽しく踊り、地域とのつながりを広げます。

③ 横川祭り運営スタッフ用・横川おどり用法被の制作

運営スタッフとのコミュニケーションや、横川おどりの衣装として使用します。